

Gikyohan Times

No.0006

岐阜県教販通信

2020年11月発行

岐阜県の学校現場の皆さんと考える 「GIGA スクール構想」の教育

当社は岐阜県の全小中高校に紙の教科書を供給し続けて100年以上の会社です。今後紙の教科書、教材、指導書がデジタルに変遷していく、教育のITC化、オンライン化していく中、当社として教科書に関する様々な情報を「岐阜県教販通信」として提供していきます。今回のテーマは「GIGA スクール構想」の教育として引き続き寺脇研氏に提案して頂きました。是非ご一読くださりコロナ後の教育に役立てればと思います。今後とも岐阜県教販通信をよろしくお願ひいたします。通信のバックナンバー及び教科書情報は→<http://www.gifukenkyohan.co.jp> をご活用ください



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省NO.1の論客でなし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

GIGA スクール構想が、いよいよ具体化し、PCの導入が始まっている。そんな中、いち早く生徒全員にPCタブレットが行き渡った学校がある。いや、教育委員会の配慮で、市の予算で教師全員にも配布されたのが、神奈川県大和市立下福田中学校だ。特別な配慮がなされたのには、理由がある。令和元年度～令和3年度の市教委委託「教育課題研究推進校」なのだ。わたしは、この研究のアドバイザーとして、教職員の皆さんと共に活動してきた。研究テーマは、「生徒とともに創る主体的な『学び』の場」。具体的には、「探究」の学習活動を確立していくのが目標である。生徒たち一人一人が自分の興味・関心に基づいて課題を選び、個人または同じ課題を選んだグループで探究に取り組んだ結果を発表していくのだ。2年生と3年生が、学年を横断して取り組む。初年度に準備を進めてきたものを、今年度は実際に行う。その矢先にコロナ禍が襲ってきた。4月下旬に予定していたスタートは5月下旬のプレ登校時にまでずれ込み、全員の探究したいテーマが決まり、ガイダンスを経て本格的に活動が始まったのは6月末になる。でも、そこから11月10日の発表会へ向けて16回の活動が行われた。

生徒たちは、夏休み中や家庭、地域での自主活動も含め熱心に取り組んだものの、臨時休業の影響は少なからずあった。そのハンデを埋めたのが、PCの全員への配布だったのである。「探究」発表会は、研究の中間発表の場でもあった。教育長はじめ市教委の指導主事たち、市内他校の校長など参加者多数が見守る中、2、3年生全員がさまざまな形で成果をみごとに示してくれた。

各自のPCタブレットの果たした役割は大きい。活動の途中までは、従来から学校に備え付けられていた40台を皆で使っていたのだが、全員配布になってからは、さらに威力は発揮する。PCを使って発表した生徒も多数いた。

コロナ下でのオンライン授業が脚光を浴びたために、教科書や教材を使って教室で一斉に行う従来の形の授業からPCによる授業へと急激に変化するかのような見方もあるようだが、前回も述べた通り、そう簡単に大転換できるものではない。決して浮き足立つことなく、従来型とPC使用とのそれぞれの長所を見極めながら、これからの学習の在り方を検討していく必要がある。

下福田中学校での成果からは、こうした探究型の「調べ学習」に役立つことが明白だ。まずは、そのあたりから使い方を工夫し、子どもたちの主体性にも目を配りながらいろんな用途を考え、トライアルを重ねていってはどうだろうか。

せつかくのPC導入を、型にはめてしまったのではもったいない気がする。